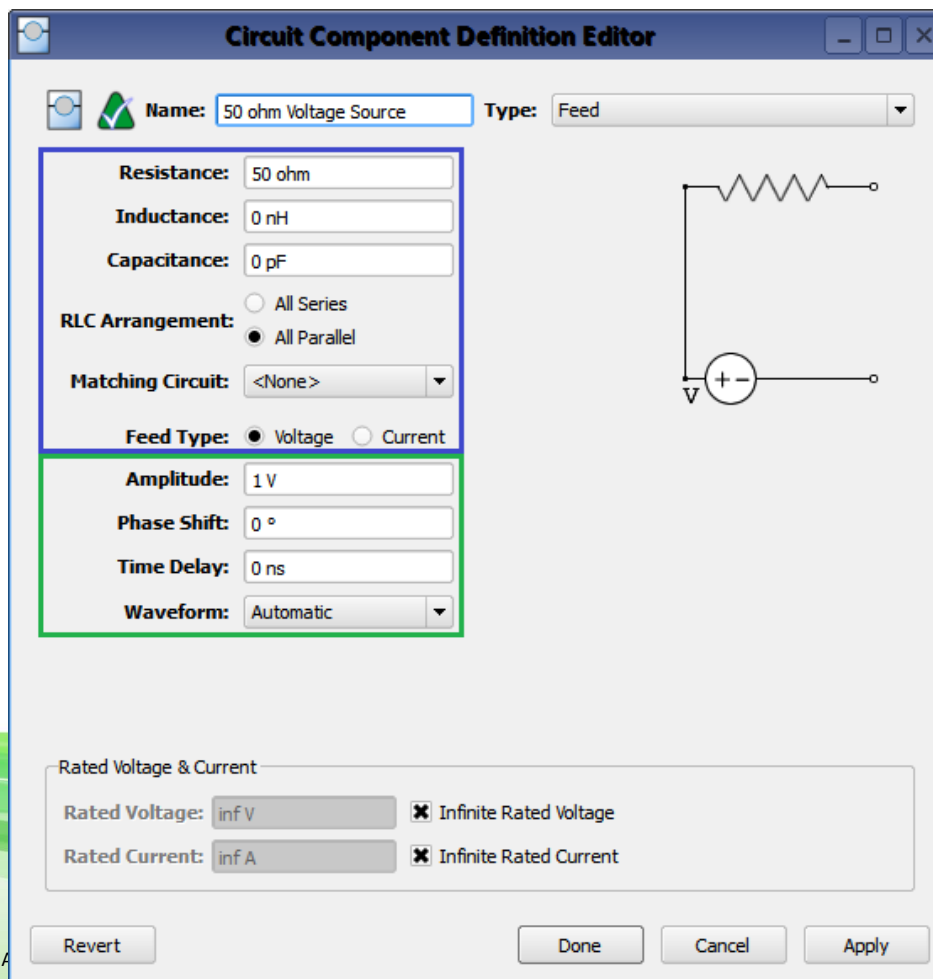


# Circuit Component Feedの設定

- ✓ ユーザーはFeedにより電圧(または電流)源を設定することができます。
- ✓ プロジェクトツリーの[Definitions]で、[circuit component definition]をダブルクリックすると、エディタが開き、TypeドロップダウンメニューからFeedを選択することで設定を行います。
- ✓ 各項目については次ページ以降の通りです。



- ✓ Resistance: source resistor.
- ✓ Inductance: source inductor.
- ✓ Capacitance: source capacitor.
- ✓ RLC Arrangement: RLCコンポーネントを並列に扱うか、直列に扱うかを決定します。直列および並列オプションはRLCエレメントの構成にのみ影響し、ソースとの関係には影響しません。そのため、RLCコンポーネントは常に電圧源と直列に、または電流源と並列に扱われます。
- ✓ Matching Circuit: どのネットリストコンポーネントをFeedのマッチングネットワークとして使用するかを指定します。
- ✓ Feed Type: 電圧ソースと電流ソースのどちらかを選択します。

※2つのポート整合回路を指定すると、ネットワークをソース抵抗と直列にするか並列にするかをユーザーが決めることができる整合回路配置オプションが有効になります。さらに、マッチング・ネットワークを指定する場合、ソース・インダクタとコンデンサはゼロでなければなりません。

一番下の項目では、波形がシミュレーション空間にどのように適用されるかを定義します。

- ✓ Amplitude: 使用可能な電力を計算するために使用される入力波形のピーク値。
- ✓ Phase Shift: 位相変位。波形が正弦波の場合にのみ適用されます。
- ✓ Time Delay: 遅延時間。波形が正弦波でない場合にのみ適用されます。
- ✓ Waveform: ソースに適用される波形の定義。

※波形が正弦波であるかどうかに応じて、位相シフトまたは時間遅延のいずれかが適用されることに注意する必要があります。

- ✓ [Rated Voltage & Current]設定は、静電気放電(ESD)解析に適用されます。定格電圧と定格電流はともにデフォルトでは無限大になっていますが、関連するボックスのチェックを外して希望の値または式を入力することで、どちらかの値を変更することができます。これらの設定はコンポーネントを介したエネルギーの伝播には影響しませんが、XFはシミュレーション中の各タイムステップで電圧と電流が定格値を超えていないかどうかをチェックします。ユーザーはこれらの設定を調整して、シミュレーション中に損傷や故障が発生する可能性の高いコンポーネントにフラグを立てることができます。

最新情報は開発元のWebサイトをご確認ください。

<https://support.remcom.com/xfdtd/reference/circuit-component-definitions/feed.html>